

発生土置き場の盛土設計概要比較表

発生土置き場		ツバクロ	剝石	イタドリ	中ノ宿 2	中ノ宿 3
設計諸元	面積	14ha	1. 4ha	0. 5ha	0. 8ha	1. 7ha
	高さ	65m	25m	15m	20m	25m
	土量	3, 600, 000m3	150, 000m3	18, 000m3	35, 000m3	150, 000m3
位置選定で判明した課題		・支持地盤の一部で液状化の可能性がある地層を確認 ・後背地山に谷地形を確認 ・地震時に対岸斜面の崩壊リスクを確認 ・支持地盤に活断層ではない左横ずれ断層の存在を確認	・後背地山に谷地形を確認	特になし	特になし	特になし
設計の基準		盛土規制法、盛土等防災マニュアル、静岡県林地開発許可審査基準及び一般次項、静岡県盛土等による環境の汚染の防止に関する条例、N E X C O設計要領、鉄道設計標準、地域生態系の保全に配慮したのり面緑化工の手引き、植栽基盤整備技術マニュアル				
安定性の検討		・円弧すべり解析により常時・地震時（kh=0. 25）いずれの場合も盛土規制法で求められる安全率を確保できることを確認。 ・ニューマーク法により、L2地震時変形量：2. 2mを確認し ①残留変位と盛土斜面の長さの比が2. 5%以下 ②河川への流出の可能性は低い ③地震時には点検を実施し必要に応じ復旧 ④ひずみ量が破壊ひずみを以下であることを文献から推定 ⑤直下に断層があることによる安定性への影響は小さい ⑥盛土の利用形態上、復旧工事に時間的制約はない ことより、盛土の管理上問題なしと判断。 ・トンネル掘削土の物性値を確認後、再解析を行い、改めて地震時の盛土の変形状況を確認予定。	・円弧すべり解析により常時・地震時（kh=0. 25）いずれの場合も盛土規制法で求められる安全率を確保できることを確認。			
盛土の補強		あり（ジオテキスタイル） ※隣接するドロノキ群落に考慮し、地下水の流れに影響が出ないよう、盛土自体を補強する工法を採用	あり（ジオテキスタイル）	あり（地盤改良）	あり（地盤改良）	あり（地盤改良）
排水設備		あり（表面排水路、沈砂池、盛土内排水設備） ・静岡県中部地区の雨量から算出した１００年確率降雨強度に２割の余裕を持たせた容量の表面排水設備を計画。 ※現場から最も近い観測所である井川での観測最大雨量よりも大きい雨量を処理可能な設計となっている。 ・排水は降雨によってのみ生じるため、天候の影響により濁っている河川への放流となるものの、より環境へ配慮できるよう柵や沈砂池の設置を計画し、濁りを低減。 ・N E X C O設計要領や盛土等防災マニュアルを参考に、盛土内排水設備を計画。地形判読結果を考慮して原地盤に地下排水工を配置。 ・新たな生育環境の創出を促進できるよう、流末周辺の構造や放流位置等を検討。				
法尻構造物		設置する（布団籠＋巨石積み） ※隣接するドロノキ群落に考慮し、水の供給状況に影響を与えないよう通水性のある工法を採用 ※巨石積みは景観を考慮し、現地材の使用を計画	設置する（重力式擁壁）	設置しない	設置しない	設置する（ファブリフォーム）
施工管理		・試験施工を実施し、必要な締固め度、含水比、転圧回数を確認 ・施工とあわせて、仕上がり厚さの確認、原地盤の段切りを実施 ・運搬車両の動線を適宜変更 ・締固め度の自動計測システム等の導入を検討	・試験施工を実施し、必要な締固め度、含水比、転圧回数を確認 ・施工とあわせて、仕上がり厚さの確認、原地盤の段切りを実施 ・運搬車両の動線を適宜変更			
緑化対策		・早期に緑化効果が発揮されるよう、のり面造成が完了した箇所から、段階的に在来種による緑化を実施。 ・緑化に使用する在来種は現地にて種子採取し、現在、井川にて苗木の育成を実施中。 （ブナ、ミズナラ、ウラジロモミ、ツガ、トウヒ、オオバヤナギ、ドロノキ、オノエヤナギ、イタヤカエデ、オオモミジ、チドリノキ、ウダイカンバ、クマシデ、カツラなど） ・植生基盤には現地表土を使用し、現況と同じ草類がまず植生する環境作りを計画。※表土は造成前に剥ぎ取りをし仮置き予定。 ・植生基盤の乾燥防止、流出防止等のため、植生基盤の表層にマルチング材（伐採した樹木を破碎した材料）を敷設。 ・植樹完了後は、獣害を防止するための防止策を設置し、育成状況をモニタリング。				
その他		・掘削土の物性値を確認後、地震時の盛土の変化状況について再解析を実施予定。	・建設汚泥を改良し、盛土材として使用する予定	特になし	特になし	特になし